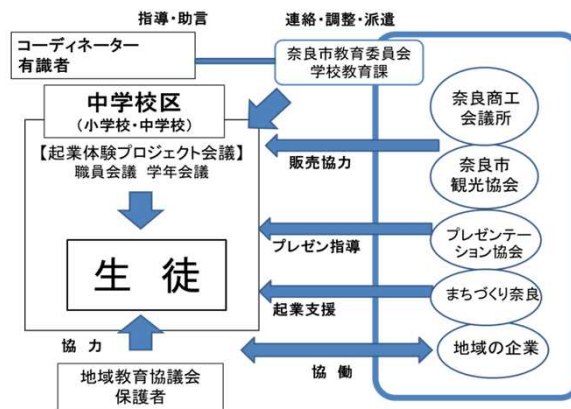


「小・中学校等における起業体験推進事業」実施計画書

1. 実施主体	
本事業を受託する教育委員会	奈良市教育委員会
2. 現状及び課題	
学校及び地域におけるキャリア教育の現状	<p>「奈良市創業支援事業に関する提言」(H. 24)によると、奈良市の、30歳代以下の若手起業家の割合は減少傾向にあり、若者による起業がほとんど行われていない。また、奈良市内に本社を置く上場企業は1社のみ(県内では4社)であり、安定した企業への就職を志向する若者にとっては、地元で希望する就職先が少ないことと思われる。帝国データバンクの『出身地別人口10万人あたり社長数ランキング』(2010年、都道府県別)では、奈良県は全国41位(783人)になっている。保守的な土地柄から、新しい挑戦を受け入れにくい風土もあると考えられる。加えて、奈良市においては、今まで創業支援をほとんど実施しておらず、支援ノウハウも蓄積されていないなど、起業に対する支援も他地域と比べて不十分である。</p> <p>また、本市中学校では2年生において職場体験学習を実施しており、関連した取組として各職場での経営内容や産業としての特徴を調べている。各中学校区には、地域教育協議会が設置されており、職場体験やキャリア教育に対するサポート体制はあるもののその関わり方は、まだまだ十分とはいえない。一方、本市の教育の柱として取り組んでいる世界遺産学習において、世界遺産をはじめとする地域の伝統文化や産業について、小学校1年生より各学校で学習している。</p> <p>キャリア教育の視点で見たとき、身に付けさせたい力が曖昧であったり、小中一貫教育のつながりが十分活かしきれていない状況もあり、1つのテーマをもってつなぐ必要性がある。</p>
学校及び地域におけるキャリア教育に関する課題	<p>地域の特徴として、東部や中部地域は、地元産業とのつながりが多く、旧来の町のコミュニティが形成されている。しかし、西部地域では、夜間の人口は多いものの、他府県からの転居者も多く、新しい地域コミュニティの形成が行われている。中部旧市街地では、世界遺産や奈良町、奈良公園や鹿などの資源があり、特に観光に関連した産業が多い。西部住宅地では、新たに土地開発され、大阪のベットタウンとして発展してきたため、様々な地域の文化や昔ながらの商店街ではなく、大型の商業施設がある。これらの資源が教育現場に十分に生かされていないことが課題であると考えられる。</p> <p>また、奈良市では、起業活動に対する態度と意識が低く、起業家が生まれにくい状況にあると考えられる。上記の現状を踏まえ、小中学校段階から子どもたちの起業家精神を育成することは急務であると考えられる。</p>
3. 委託内容に対する取組	
実施する学校	<p>奈良市立飛鳥中学校区(予定)</p> <p>奈良市立三笠中学校区(予定)</p> <p>奈良市立登美ヶ丘北中学校区(予定)</p>
目標	<p>児童生徒に起業家精神(創造性や探究心、実行力)を育成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題やニーズを知り、30年後の奈良の未来について考え、住みよい町、歴史ある町として今後発展できるようなコミュニティデザインを企画する。 ・企業と協働して、行動を起こし、その成果を地域や保護者等に発信する。
取組計画	<p>本市は、平成27年度より全市立学校で小中一貫教育を行っており、小学校・中学校それぞれの取組を交流することで、小学生にとっては中学に向けてのモデル化、中学生にとっては、学習の定着ができる。今回小中一貫教育のシステムを活用し、各中学校区で、一つの学年だけでなく、校種を越えた取組の継続ができるよう工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に、起業サポート企業、有識者等と打合せし、進め方を確認する。 ・各学校に起業体験モデルプランを示し、各校での「子どもたちに身に付けさせたい力」を明確にした上で、それぞれのプランを照らし合わせて実施計画を考える。 ・各校の計画をもとに、教育委員会と相談しながら各学校にあった起業体験プランを決める。 <ul style="list-style-type: none"> P→地域の願いや現状から地域の課題をつかむ。 D→アイデアを出し合いプランを考える。 C→地域の企業や奈良商工会議所の担当者に対してプレゼンを行い、実際に事業化したときに地域改善に本当に役に立つのかという視点で評価・助言を受ける。 <p>評価の視点：実現性、地域への貢献度、費用対効果等</p> A→評価・助言を基に児童生徒と地元の企業及び商工会議所担当者が協働して、実施に向けた計画書を作成し、行動にうつす。 <ul style="list-style-type: none"> ・各校でのプランは、グループで提案を出し合うプロポーザル方式を取り入れる。 ・模擬的な会社やNPO等の団体を設定し、企画販売や労働提供を行うと共にCSRの理念を培う。 ・成果は、地域や保護者にポスターセッション等を通じて還元するとともに、小学生にも発表することを通して起業家精神の定着を図る。また、本市が事務局をつとめる世界遺産学習連絡協議会が主催する「世界遺産学習全国サミット」も実践や発信の場として活用する。

(1)学校において起業体験活動を実施するためのモデルの構築

①実施体制(図で示すなどわかりやすく記載すること)



②授業をサポートする団体(予定でも可)

商品評価: 奈良税務署、奈良商工会議所、地域コーディネーター
 販売協力店: 東向き商店街、奈良商工会議所、奈良市観光協会
 地域社会の協力: 地域教育協議会、社会福祉協議会
 販売プレゼンテーション: プレゼンテーション協会
 起業支援: 京都高度技術研究所、株式会社まちづくり奈良、NPO法人JAE

③取組内容

【各校での取組予定】

・飛鳥中学校区

校区に奈良町や近隣に春日原始林、元興寺などの世界遺産があるため、観光客も多く訪れる地域である。そのため、ICTを活用した世界遺産の紹介や修学旅行で訪れた児童を対象にした案内などを行ってきた。今回、新たな取り組みとして児童生徒向けの観光案内地図を作成し、児童生徒の視点で観光PRを進めたいと考えているため、作成に関わるスポンサー探しや地図の販売又は配布経路づくりなどを行っていく。また、飛鳥小学校と飛鳥中学校では、キャリア教育において9年間の系統的な学習計画があり、地域と協働した職場体験学習を行っているため、地域の課題や良さを出し合った中で小中学生ができる内容を具体的に導き出すことができると考える。

観光PR: 総合的な学習

観光案内図作成: 社会、外国語、図画工作・美術

スポンサー探し: 総合的な学習の時間

地図の販売又は広報経路づくり: 算数・数学

・三笠中学校区

この校区では、商業地と住宅地が混在し、世界遺産の平城宮跡や人の往来も多い近鉄新大宮駅・JR奈良駅など場所を含んでいる。商業地であることから市場としての期待がもてる。また、佐保川沿いの桜並木は奈良市内でも桜の名所として知られ、学校が連携し、清掃活動も行われている。特に、この地域には、奈良市立の一条高校・三笠中学校・佐保川小学校・大安寺西小学校・大宮小学校・椿井小学校があり、高校から小学校まで続く連携も日常的に行われている。昨年中学校2年生が地域コーディネーターと協力し、各自で職場体験先を見つけるなど地域の協力も見込まれる地域である。また、新たな移住者も多く、小学校や中学校を中心に様々な活動とおして交流を深めている地域でもある。桜や佐保川などをキーワードとして、新たなコミュニティづくりと地域活動をすすめていく。また、広報紙やSNSを活用した情報サイトの立ち上げなどもすすめていく。地域としての良さをどのように発信していくかということに注目して、奈良の特産物であるお茶のペットボトルのラベルに地域の良さや特徴をデザインして販売するなど、地産となるブランド品を活用する。お茶の産地である本市東部山間地区の中学校と連携して取り組むことも考える。

地域の良さを調べる: 社会、総合的な学習の時間

市場調査: 算数・数学

広報活動: 総合的な学習の時間

ラベルデザイン: 図画工作・美術

スポンサー探し: 総合的な学習の時間

・登美ヶ丘北中学校区

この校区は、近鉄学園前駅から延びる住宅地にあり、新たな移住者が多い校区である。また、大型ショッピングモールなど商業施設はあるがいわゆる大阪都市圏のベッドタウンとなっている。このため、歴史的文化的遺産は少ないが、住みよい町として新たな価値観を生み出し、幼児から高齢者までつながるコミュニティを形成し、住民がつながるイベントの企画や生活の支援組織作りなどを考えていく。「みんなが幸せになる町を想像・創造しよう！」ということで、現在の良さについて知るとともに、自分たちの未来の町がこうあってほしいという願いを込めたポスターやうちわを作成し、地域主催のイベント等で販売を通して広報活動を行う。

校区の良さを調べる: 社会、総合的な学習の時間

ポスター・うちわ作り: 図画工作・美術

キャッチコピーを考える: 国語

商品コンセプト

スポンサー探

このような取組
いと考える。

対象: 小学6年生・中学1年生
教科: 総合的な学習の時間
社会 国語 外国語
図画工作 美術 技術・家庭

身に付けさせたい力
・関わる力 → 友達と協力して、自分の責任を果たす力
・挑戦する力 → 課題を見つけ、最後までやり遂げる力

地域資産
・世界遺産「古都会良の文化財」
・地域遺産
・地域産業・伝統工芸
・地域教育協議会(ひと)

中学2年生

ジュニア
インターンシップ
(探究型職場体験学習)
探究課題をさらに追究



集し活用する力を身につけさせた

(2) 域内の学校に普及するための取組

① 域内の学校への普及方法について

- ・モデル校の取組を紹介する冊子等を作成する。
- ・域内教員がモデル校開催の学習発表会を参観する。
- ・教育委員会ホームページへ掲載する。

② 地域・保護者等への周知方法について

- ・ホームページや学校便り、学級通信に掲載する。
- ・授業参観を設ける。
- ・保護者懇談会等を通して知らせる。
- ・学習内容が分かる校内掲示をする。
- ・校内や地域、校区内小学生に向けた学習発表会を開催する。

(3) その他の取組

- ・商店街や商工会議所、企業等にモデル校での取組を紹介いただく。
- ・世界遺産学習全国サミットで実践・発信し、全国に取組を広める。

4. スケジュール	
実施時期	実施内容
5月	各校にて、起業体験プロジェクト会議を立ち上げる。
6月	地域の願いや現状から地域の課題を考える。(テーマ別グループワーク)
7月	グループごとにアイデアを出し合い、プランを考える。(企画委員会)
10月	地域企業に考えたプランをプレゼンし、助言を受ける。(企画委員会)
11月	地域企業と協働して、プランを実施する。
	世界遺産学習全国サミットで実践・発表
1月	発表会を開き、モデル校の取組を地域や保護者、小学生に紹介する。

5. 取組により見込まれる成果とその検証方法

取組により見込まれる成果

- ①観光資産を元にした待ち受けの商品の宣伝や販売ではなく、新たな地域資産としてリメイクするなどし、新たな奈良をアピールできる商品開発を目標に、それぞれの地域でモデル校を設定し、市内各校での活用例としてモデルプランを作成する。
- ②生徒一人一人が役割を担う中で、チームワークの重要性を認識し、お互いを認め合い、支え合い課題解決に向けて、より良い手段や方法を導き出せるようコミュニケーション能力を育成する。
- ③商品開発や販売を実社会で体験することを通して、自分の役割と社会との関わりを学び、生徒の自己肯定感を高める。
- ④中学生自らの提案を地域の市民や企業と一緒に具現化することによって、地域全体の地域活性化につなげる。

検証方法

- ・生徒に取組の事前事後にアンケート調査や感想文により、意識や意欲について分析評価する。
- ・実施校教員へのアンケートにより、生徒の変化・教員の意識などについての効果を分析する。
- ・協力いただいた企業及び関係学年の保護者、地域住民へのアンケート調査(生徒の様子や要望等)をする。
- ・全国学力学習状況調査の分析